

(3) 路線バスの現状

①本地域における路線バス

(運行地域)

本地域における路線バスは、くしろバス、阿寒バス及び根室交通の3社により運行されている。くしろバスは釧路市内、釧路市と釧路町・厚岸町・白糠町を結ぶ路線を運行し、阿寒バスは釧路市内、弟子屈町内、中標津町内、羅臼町内、釧路市と釧路町・標茶町・鶴居村・別海町・中標津町・標津町・羅臼町を結ぶ路線、標津町と標茶町を結ぶ路線を運行し、根室交通は根室市内、根室市と別海町・中標津町を結ぶ路線を運行している。また、くしろバスと根室交通は共同で釧路市と根室市を結ぶ路線を運行している。

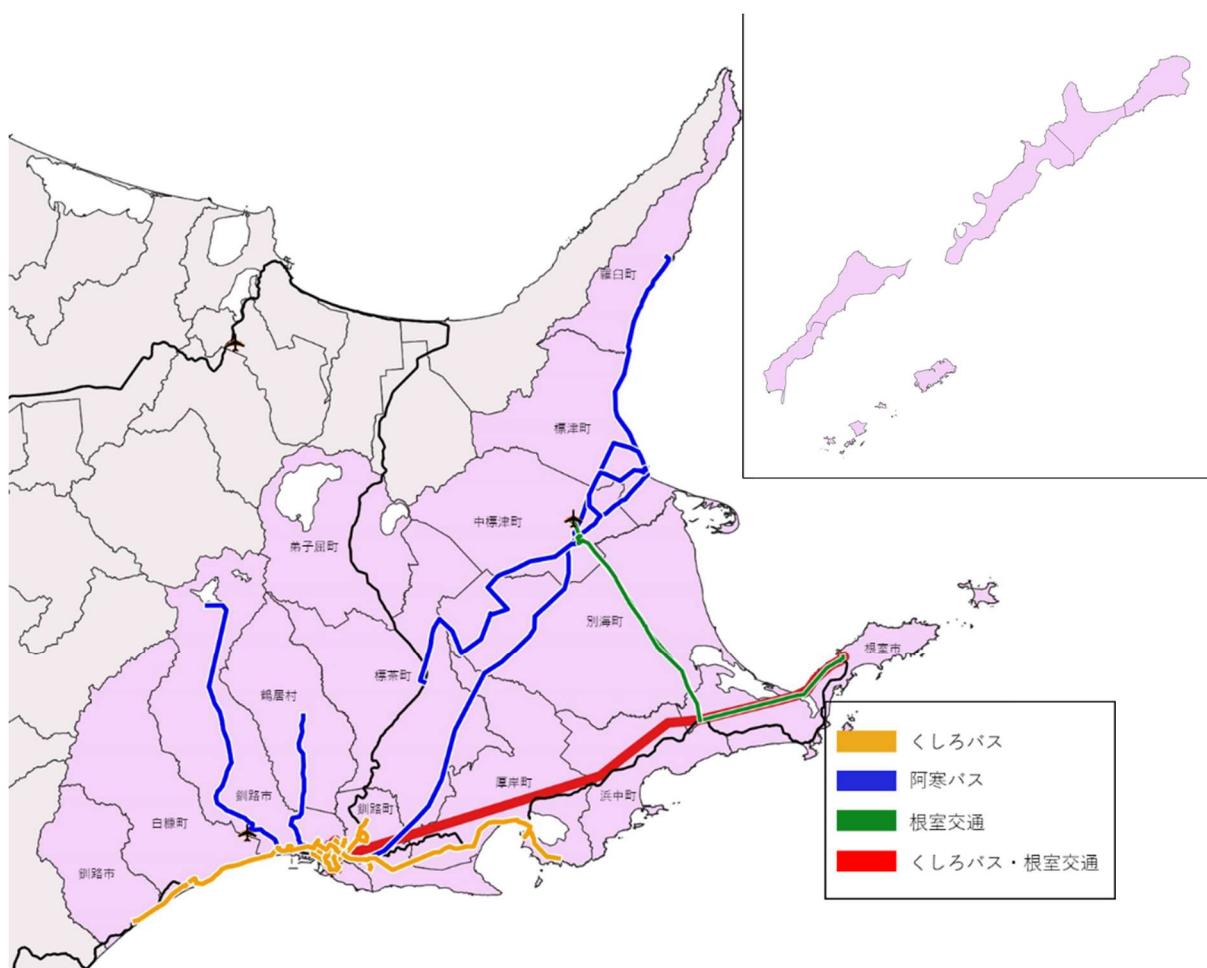


図3-18 本地域の主な広域バス路線

(輸送人員・運送収入)

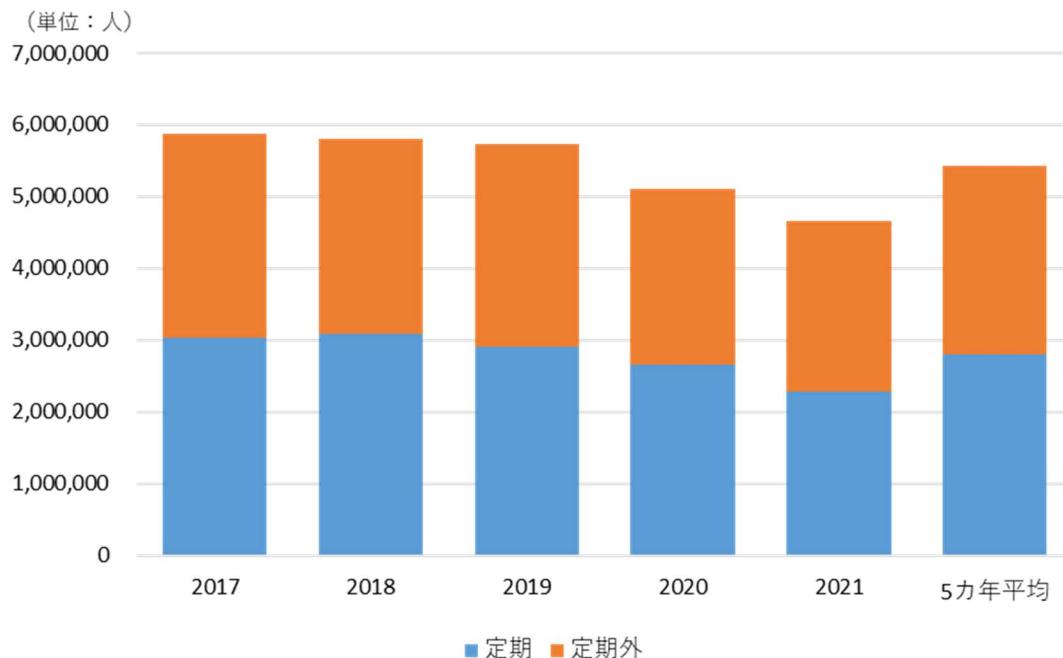
本地域におけるバスの輸送人員は、年々減少傾向にあり、近年は新型コロナウィルス感染症の影響を受け減少している。

路線バスを運行する3社の輸送人員のうち、定期券利用が過半数を超えており、バス事業者ごとにみると、くしろバスは約6割、阿寒バスは約3割、根室交通は約1割が定期券利用となっている。

本地域における運送収入は、新型コロナウィルス感染症の影響を受け、コロナ以前と比べると減少している。

3社の合計では、一般乗合が過半数を超えており、バス事業者ごとにみると、くしろバスは約7割、阿寒バスは約3割、根室交通は約4割が一般乗合となっている。

本地域の広域交通を担うバス路線の収支率は、ほぼ横ばいで推移していたが、令和2年（2020年）以降は減少傾向である。

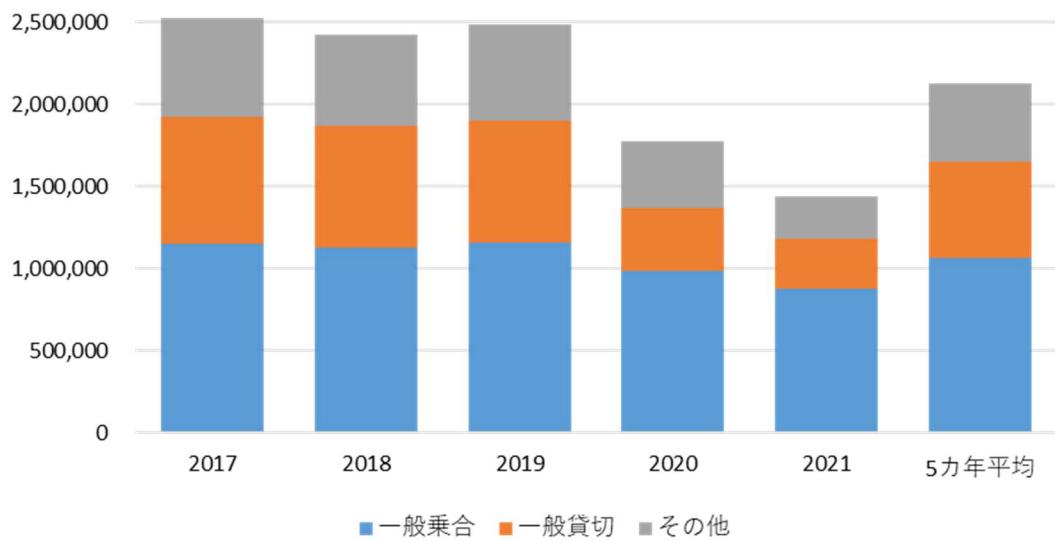


出典：バス事業者提供資料（各年度は前年10月1日から当年9月30日まで）

図3-19 本地域のバス事業者の輸送人員の推移

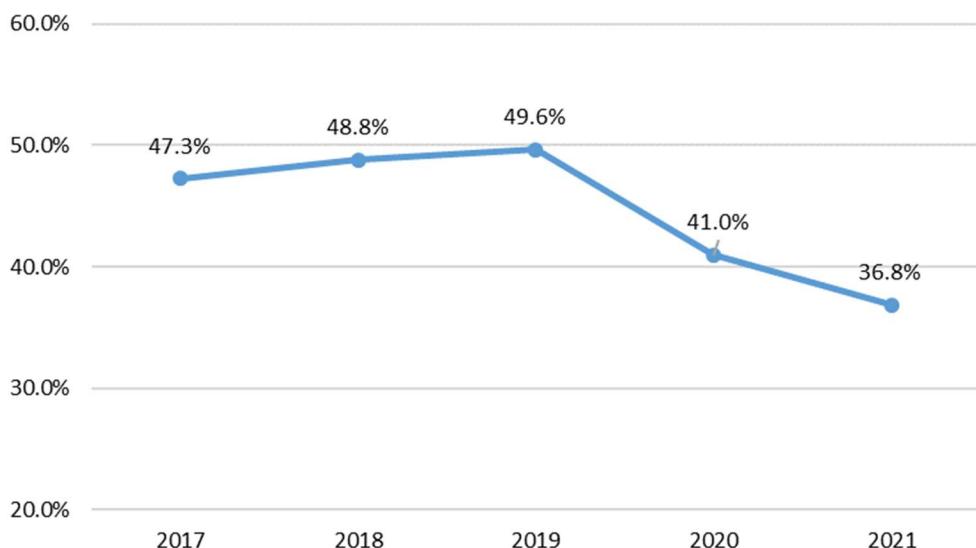
(単位：千円)

3,000,000



出典：バス事業者提供資料（各年度は前年10月1日から当年9月30日まで）

図3-20 本地域のバス事業者の運送収入の推移



出典：バス事業者提供資料（各年度は前年10月1日から当年9月30日まで）

図3-21 本地域のバス路線（地域間幹線系統・広域生活交通路線）の収支率の推移

(運転手の在籍状況)

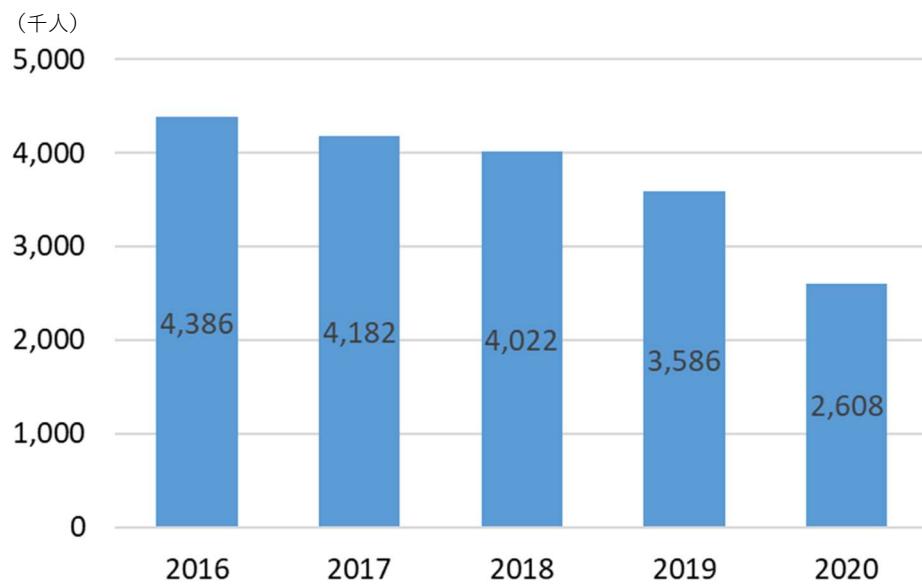
バス事業者からの聞き取りでは、本地域におけるバス事業者の運転手は、高齢化しており、約7割が50歳以上であることから、今後、運転手の退職等によるさらなる運転手不足が懸念されている。バス事業者ごとにみると、くしろバスは約7割、阿寒バスは約8割、根室交通は約7割を50歳以上の運転手が占めている。

②病院送迎バス

令和4年（2022年）1月、釧路三慈会病院が、路線バスと一部経路が重複（弟子屈町・標茶町方面、標津町・中標津町・別海町方面、根室市方面）した病院送迎バスを運行していたが廃止。バス事業者はこれまでどおり利用者が通院できるように、既存の路線バスの経路を変更し、釧路三慈会病院前に停留所を新設した。

(4) ハイヤー・タクシー

ハイヤー・タクシーの輸送人員は、年々減少傾向にある。



出典：北海道の運輸の動き（国土交通省北海道運輸局）
(<https://wwwtb.mlit.go.jp/hokkaido/kakusyu/toukei/unnyunougoiki/nenpou/02.html>) を加工して作成

図 3-22 本地域のハイヤー・タクシーの輸送人員の推移

(5) 補助制度を活用したバス路線の維持・確保

バス路線の維持・確保にあたっては、国、道、市町村、バス事業者がそれぞれ役割分担・協調しながら必要な方策を講じてきたところである。

広域交通を担うバス路線については、国庫補助（地域間幹線系統確保維持費補助金）、北海道補助（主に複数市町村を結ぶ生活バス路線を対象とした広域生活交通路線維持費補助金、市町村が主体となって運行するバス路線を対象とした市町村生活バス路線運行費補助金）の活用や市町村からの補助により路線の維持確保に取り組んできたところである。

生活圏交通を担うバス路線等については、市町村の地域公共交通網形成計画（地域公共交通計画）に基づき、国庫補助（地域内フィーダー系統確保維持費補助金）や北海道補助（広域生活交通路線維持費補助金、市町村生活バス路線運行費補助金）の活用や市町村からの補助により路線の維持・確保に取り組んでいる。

(6) 地域における主な利用促進の取組

地域において、公共交通の利用を促進するため、次のような取組を行ってきた。

①鉄道

（釧網線）

- ・利用促進PR事業を実施（釧路市ほか）
- ・くしろ鉄道めぐり Instagram 投稿キャンペーン（釧路総合振興局）
- ・町外からの通学生徒を対象にした通学定期券購入に対する助成（標茶町、弟子屈町）
- ・釧網本線リモートトラベル事業（JR 釧網本線維持活性化実行委員会）
- ・サイクルトレインモニタツアー（JR 釧網本線維持活性化実行委員会）

（花咲線）

- ・地球探索鉄道花咲線プロジェクトとして利用促進PR事業を実施（根室市ほか）
- ・地域公共交通網形成計画に基づき、乗継環境の確保など鉄道駅を拠点とした利用しやすい交通ネットワーク構築（厚岸町、浜中町）
- ・くしろ鉄道めぐり Instagram 投稿キャンペーン（釧路総合振興局）

②バス路線

- ・満70歳以上の方を対象に路線バスでのおでかけを支援（釧路市高齢者外出促進バス事業）【広域交通、生活圏交通】
- ・満70歳以上の方を対象にバス利用に対する助成（釧路町いきいきシニアサポート事業・根室市優待バス乗車券）【広域交通、生活圏交通】
- ・高齢者の定期券購入助成（釧路市・釧路町）【広域交通、生活圏交通】

- ・路線バスプレミアム付き回数券（根室市）【広域交通、生活圏交通】
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種を行う 65 歳以上の高齢者に対する無料バス券及びタクシー補助券の配布（中標津町）【生活圏交通】
- ・町内の高校に通学する生徒に対する通学費補助（別海町・標津町）【広域交通、生活圏交通】
- ・市民へのバス代金補助（羅臼町）【広域交通、生活圏交通】
- ・公共交通ガイドマップ、バスマップ（釧路町、浜中町、弟子屈町）【広域交通、生活圏交通】
- ・バス体験試乗会（弟子屈町）【広域交通、生活圏交通】
- ・釧路市内のはぼすべての路線で電子マネーW A O N導入（令和 4 年（2022 年）4 月 1 日～）【広域交通、生活圏交通】
- ・くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携し、「4／7 days フリーパスポート」（釧路・根室・中標津・羅臼などが 7 日間のうち 4 日乗り放題）を販売（WEB でも購入可能）【広域交通】
- ・令和 4 年（2022 年）1 月より、道東エリアのバスの路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行える W E B サイトを構築する実証実験を実施（北海道運輸局・道東のバス事業者）【広域交通】

（7）地域公共交通確保に向けた関係者のこれまでの取組

「2－1（3）②地域公共交通網形成計画」のとおり、当地域の市町村では生活圏交通を中心とした公共交通ネットワークの構築に向け、地域公共交通網形成計画を策定し、公共交通網の形成を通じて地域の公共交通確保の取組を実施してきた。

当地域では 7 市町村において地域公共交通網形成計画を策定（令和 4 年（2022 年）12 月 31 日現在）しており、これら市町村においては、計画策定に際し、利用実態などの調査を実施し、計画策定後は市町村地域公共交通活性化協議会での協議に基づき、運行形態の見直しや利用促進などの取組が行われている。

地域公共交通網形成計画策定済みの市町村及び他の市町においては、地域公共交通計画策定に向けた取り組みを行っている。

個別の路線については、長距離バス路線（釧路羅臼線、釧路線（根室線））について令和 4 年（2022 年）に関係者による今後の運行形態のあり方の検討・協議を行っている。

さらに、旧 JR 代替バス路線（標津西春別線、中標津線）について、令和 2 年（2020 年）から関係者による協議を行っている。

地域公共交通網形成計画は、令和 2 年（2020 年）6 月の一部改正前の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく地域公共交通に関する計画。当該計画を策定済みの市町村においては、令和 2 年（2020 年）6 月の一部改正後の法律に基づき、今後、地域公共交通計画を策定予定。

(8) 広域バス路線の現状について

市町村地域公共交通網形成計画、市町村が実施した利用実態調査、市町村地域公共交通活性化協議会における議論や市町村及びバス事業者へのヒアリングを踏まえ、次のとおり路線の現状を整理する。(令和5年5月時点)

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
遠矢線 (20.6km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：25)	<ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前～三映団地（平日8便、土日祝4便）、三映団地～釧路駅前（平日9便、土日祝6便）を運行。東高校、イオン釧路店などに停車。 釧路駅前発は、通学目的の利用が29%、買い物目的が30%。三映団地発は、通勤目的が30%、通学28%。多様な目的で利用され、釧路駅前、イオン釧路店、東高校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、買い物等の利用者が多く、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。 令和3年（2021年）10月1日、医療機関前に停留所を新設し、利便性の向上を図っている。
たんちょう線 (18.7km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：17)	<ul style="list-style-type: none"> まりも団地～イオン釧路店（平日5便、土日祝9便）、イオン釧路店～まりも団地（平日5便、土日祝9便）を運行。商業高校、公立大学、イオン昭和店・釧路店などに停車。 まりも団地発は、買い物目的の利用が45%、通学9%。イオン釧路店発は、買い物目的38%、通学目的21%。イオン釧路店、イオン昭和店での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物、通学の利用者が多く、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。
南北線(系統1) (18.4km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：31)	<ul style="list-style-type: none"> 東高校～第2若草団地（平日12便、土日祝9便）、第2若草団地～東高校（平日12便、土日祝9便）を運行。湖陵高校、工業高校、東高校、市立病院、三慈会病院、労災病院、イオン釧路店などに停車。 東高校発は、通勤目的の利用が29%、通学18%、通院13%。若草団地発は、通勤目的20%、通学17%、通院14%。日常の足として様々な目的で利用されている。釧路駅前、市立病院、イオン釧路店での乗降が多い。 釧路町予約制デマンドバス「昆布森イオン線」と接続。 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤、通学、通院の利用者が多く、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。
豊美線 (7.6km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：23)	<ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前～湿原の風アリーナ（平日10便、土日祝8便）、湿原の風アリーナ～釧路駅前（平日10便、土日祝8便）の運行をしてきたが、釧路市地域公共交通活性化協議会（令和4年（2022年）7月）において利用者の少ない便を減便することとし、令和4年（2022年）10月1日より、釧路駅前～湿原の風アリーナ（平日6便、 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤、通学、買い物、通院と様々な目的で利用されおり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
	<p>土日祝 7 便)、湿原の風アリーナ～釧路駅前(平日 6 便、土日祝 7 便)を運行。イオン釧路店などに停車。</p> <ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前発は、通勤目的の利用が 30%、通学 18%、買い物 20%。アリーナ発は、通勤目的 33%、通院 8%。釧路駅前、イオン釧路店での乗降が多い。 	
イオン美原線 (8.9km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量 : 18)	<p>・釧路駅前～孝仁会記念病院(平日 8 便、土日祝 4 便)、孝仁会記念病院～釧路駅前(平日 7 便、土日祝 4 便)の運行をしてきたが、釧路市地域公共交通活性化協議会(令和 4 年(2022 年) 7 月)において買い物利用者の需要が高いことから増便することとし、令和 4 年(2022 年) 10 月 1 日より、釧路駅前～孝仁会記念病院(平日 8 便、土日祝 6 便)、孝仁会記念病院～釧路駅前(平日 8 便、土日祝 6 便)を運行。孝仁会記念病院、イオン釧路店などに停車。</p> <ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前発は通勤目的の利用が 33%、通院 16%、通学 12%。孝仁会記念病院発は、通勤目的 51%、通院 10%、通学 8%。釧路駅前、労災病院での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤、通院、通学と様々な目的で利用されおり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON 決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。
イオン線 (17.9km) くしろバス 釧路市・釧路町 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量 : 67)	<ul style="list-style-type: none"> イオン昭和店～博物館(平日 11 便、土日祝 12 便)、博物館～イオン昭和店(平日 9 便、土日祝 11 便)を運行。商業高校、湖陵高校、工業高校、公立大学、イオン昭和店・釧路店、市立病院、市民文化会館、博物館などに停車。 イオン発は、買い物目的の利用が約 33%、通学 19%、通勤 19%。博物館発は、買い物目的 26%、通勤 19%、通学 17%。湖陵高校、イオン釧路店、イオン昭和店での乗降が多い。 市単独補助路線として運行していたが、令和 3 年(2021 年) 10 月 1 日より国庫補助路線として運行。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物、通勤、通学と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON 決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性向上に取り組んでいる。

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
別保線 (18.3km) くしろバス 釧路市・釧路町 【広域生活交通路線】 (令和3年度輸送量: 17)	<ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前～双河辺（平日2便）、双河辺～釧路駅前（平日3便）を運行。東高校、イオン釧路店、別保駅、役場などに停車。 釧路発は、通学目的の利用が27%、買い物18%。双河辺発は、通勤27%、通学13%。様々な目的で利用されている。東高校、イオン釧路店での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通勤、買い物と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性の向上に取り組んでいる。 令和3年（2021年）10月1日より、利用が少ない区間を短縮することにより、運行形態を見直し効率化を図っている。
厚岸釧路線 (66.1km) くしろバス 釧路市・釧路町・厚岸町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量: 22)	<ul style="list-style-type: none"> くしろバス本社～子野日公園（平日5便、土日祝4便）、子野日公園～くしろバス本社（平日5便、土日祝4便）を運行。厚岸翔洋高校、北陽高校、工業高校、町立病院、市立病院、三慈会病院、イオン釧路店、厚岸駅、役場などに停車。 通学目的の利用が52%、通院19%、買い物13%、通勤13%。子野日公園発は、厚岸翔洋高校、厚岸駅前、イオン釧路店、北陽高校、明輝高校での乗降が多い。くしろバス本社発は、明輝高校、釧路駅前、イオン釧路店、厚岸駅前、厚岸翔洋高校での乗降が多い。 令和2年度（2020年度）に市町の計画及び関係者による協議により霧多布線を短縮し、霧多布・子野日公園間は町営バスとして運行。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通勤、買い物と様々な目的で利用されており、厚岸町と釧路市を結ぶ唯一のバス路線であるとともに、浜中町の高校生等も利用する路線（町営バス乗り継ぎ）であり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性の向上に取り組んでいる。
阿寒線 (78.6km) 阿寒バス 釧路市（・旧阿寒町） 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量: 11)	<ul style="list-style-type: none"> 釧路駅前～阿寒湖バスセンター（7月～10月：平日土日祝4便、11月～6月：平日土日祝3便）、阿寒湖バスセンター～釧路駅前（7月～10月：平日土日祝4便、11月～6月：平日土日祝3便）を運行。阿寒高校、高専、釧路空港、ショッピングセンターなどに停車。 釧路発は、観光目約の利用が31%、買い物26%、通院17%。阿寒湖発は、観光目的28%、通学22%、買い物15%。釧路駅前、阿寒高校、阿寒湖温泉での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の通学、買い物、通院に利用されており、釧路市阿寒地域と釧路地域を結ぶ唯一の公共交通であり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性の向上に取り組んでいる。
鶴居線 (41.0km) 阿寒バス 釧路市・鶴居村 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量: 14)	<ul style="list-style-type: none"> 釧路市立病院～グリーンパークつるい（平日6便、土日祝4便）、グリーンパークつるい～釧路市立病院（平日5便、土日祝4便）を運行。工業高校、北陽高校、商業高校、市立病院、イオン昭和店、湿原展望台などに停車。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通院、買い物目的で利用されており、鶴居村と釧路市を結ぶ唯一の公共交通であり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
	<ul style="list-style-type: none"> 釧路市立病院発は、通学目的の利用が 30%、通院 12%。鶴居発は、通学目的 24%、買い物 13%。釧路駅前、北陽高校、鶴居中学校での乗降が多い。 	設置など利便性の向上に取り組んでいる。
白糠線(系統 1)(34.8km) 白糠線(系統 2)(46.7km) くしろバス 釧路市・白糠町(・旧音別町) 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量 系統 1:38、系統 2:15)	<ul style="list-style-type: none"> 白糠線(系統 1)は、釧路駅前～白糠高校(平日 11 便、土日祝 5 便)、白糠高校～釧路駅前(平日 12 便、土日祝 5 便)を運行。 白糠線(系統 2)は、釧路駅前～音別駅(平日 4 便、土日祝 3 便)、音別駅～釧路駅前(平日 3 便、土日祝 3 便)を運行。白糠高校、日赤病院、白糠駅前などに停車。 通学目的の利用が 30%、通勤 17%、買い物 15%。 白糠高校発は、白糠高校、白糠駅、大楽毛、釧路駅間での乗降が多く、釧路駅前発は、釧路駅、大楽毛、白糠高校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通勤、買い物目的で利用されており、白糠町や釧路市音別地域と釧路地域を結ぶ唯一のバスであり、路線の確保は必要であるため、電子マネーWAON 決済の導入、待合室へのデジタルサイネージ設置など利便性の向上に取り組んでいる。
標津西春別線(60.7km) 阿寒バス 別海町・中標津町・標津町 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量: 15)	<ul style="list-style-type: none"> 標津～西春別(平日 5 便、土日祝 3 便)、西春別～標津(平日 4 便、土日祝 2 便)を運行。標津高校、中標津高校、中標津農業高校、町立病院、役場などに停車。 標津発は、通学目的の利用が 97%、通勤 3%、西春別発は、通学目的 90%、通勤 4%。中標津高校、中標津農業高校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通勤目的で利用されており、中標津町と別海町、標津町を結ぶ唯一の公共交通路線であり、路線の確保は必要であるため、標津線代替輸送連絡調整協議会において路線の維持・確保並びに再編について検討している。
中標津線(52.6km) 根室交通 根室市・別海町・中標津町 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量: 19) ※中標津線は廃止(R5.10 から中標津空港線に再編)	<ul style="list-style-type: none"> 厚床～中標津 BT(平日 5 便、土日祝 2 便)、中標津 BT～厚床(平日 5 便、土日祝 2 便)を運行。別海高校、中標津高校、町立病院、厚床駅前、役場などに停車。 厚床発は、通学目的の利用が 63%、通院 13%。中標津発は、通学目的 77%、通勤 9%。 厚床発は、別海高校前、中春別、中標津高校前での乗降が多く、中標津 BT 発は中春別、別海高校前での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学、通勤目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、標津線代替輸送連絡調整協議会において路線の維持・確保並びに再編について検討している。 道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行える WEB サイト構築(令和 4 年(2022 年) 1 月より実証実験として実施)。
中標津空港線(84.4km) 根室交通 根室市・別海町・中標津町 【地域間幹線系統】 (令和 3 年度輸送量: 9)	<ul style="list-style-type: none"> 根室交通有磯営業所前～中標津空港(平日土日祝 4 便)、中標津空港～根室交通有磯営業所(平日土日祝 4 便)を運行。別海高校、中標津ターミナル、中標津空港などに停車。 根室交通有磯営業所前発は、根室駅前 BT、別海高校前、中標津 BT、中標津空港での乗降が多く、中標津空港発は、中標津空港、中標津 BT、根室駅前 BT での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 空港利用、通学目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、中標津空港利用促進期成会において路線のあり方の検討・協議を行っている。 道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行える WEB サイト構築

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
釧路羅臼線 (165.5km) 阿寒バス 釧路市・釧路町・標茶町・別海町・中標津町・標津町・羅臼町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：7)	<ul style="list-style-type: none"> 主に中標津空港利用者、高校生の通学に利用されているが、コロナ拡大以降空港利用者は減少。 釧路市立病院～羅臼営業所（平日4便、土日祝2便）、羅臼営業所～釧路市立病院（平日4便、土日祝2便）を運行。羅臼高校、標津郵便局（標津高校）、中標津高校、町立病院、癌センター、労災病院、日赤病院、三慈会病院、市立病院、イオン釧路店などに停車。 釧路市立病院発は、通学目的の利用が25%、観光25%。羅臼営業所発は、通学36%、通院15%、観光8%。訪日外国人観光客の利用はコロナ拡大以降ほぼなくなった状態。 釧路市立病院発は、釧路駅前、標津郵便局での乗降が多く、羅臼営業所発は、羅臼本町、中標津BT、中標津高校前、標津郵便局前での乗降が多い。 路線延長が長いため運行費用が大きくなる。 	<p>(令和4年(2022年)1月より実証実験として実施)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学・通院等の目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、北海道、関係自治体、バス事業者により路線の見直しを含め検討・協議中（令和4年度(2022年度)）。 観光目的の利用者が多い路線であり、さらなる利用促進が必要なため、くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携した「4/7 days フリークーポン」（釧路・根室・中標津・羅臼などが7日間のうち4日間乗り放題）を販売（WEBでも販売）。また、道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行えるWEBサイト構築（令和4年(2022年)1月より実証実験として実施）。
釧路線（根室線）(142.5km) 根室交通・くしろバス 根室市・釧路市・釧路町・浜中町 【地域間幹線系統】 (令和3年度輸送量：12)	<ul style="list-style-type: none"> 根室交通有磯営業所前～くしろバス本社（平日3便、土日祝2便）、くしろバス本社～根室交通有磯営業所前（平日3便、土日祝2便）運行。市立釧路病院、三慈会病院、東北海道病院、日赤病院、労災病院、孝仁会記念病院、イオン釧路店などに停車。 根室交通有磯営業所前発は、通院目的の利用が78%、観光11%。くしろバス本社発は、通院（帰路）が64%、観光9%。 根室交通有磯営業所前発は、根室駅前BT、市立釧路病院前、釧路労災病院前、釧路駅前での乗降が多く、くしろバス本社発は、市立釧路病院前、イオン釧路店前、根室駅前BTでの乗降が多い。 路線延長が長いため運行費用が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通院目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、北海道、関係自治体、バス事業者により路線の見直しを含め検討・協議中（令和4年度(2022年度)）。 観光目的の利用者もいる路線であり、さらなる利用促進が必要なため、くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携した「4/7 days フリークーポン」（釧路・根室・中標津・羅臼などが7日間のうち4日間乗り放題）を販売（WEBでも販売）。また、道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行えるWEBサイト構築（令和4年(2022年)1月より実証実験として実施）。

出典：「釧路市地域公共交通網形成計画（平成 29 年（2017 年）6 月）」、「釧路市地域公共交通再編実施計画（令和元年（2019 年）9 月、令和 3 年（2021 年）9 月変更）」、「釧路町地域公共交通網形成計画（平成 30 年（2018 年））」、「厚岸町地域公共交通網形成計画（平成 30 年（2018 年）3 月）」、「浜中町地域公共交通網形成計画（令和 2 年（2020 年）5 月）」、「弟子屈町地域公共交通網形成計画（令和元年（2019 年）6 月）」、「鶴居村地域公共交通プラン（鶴居村地域公共交通網形成計画）（令和 2 年（2020 年）5 月）」、「白糠町地域公共交通網形成計画（平成 29 年（2017 年）3 月）」、標津線代替輸送連絡調整協議会、釧路総合振興局による聞き取り調査、根室振興局による聞き取り調査

（釧路市：<https://www.city.kushiro.lg.jp/machi/tkeiei/1006034/1006048.html>）
（釧路町：<http://www.town.kushiro.lg.jp/information/20301/00041/215020450409.html>）
（厚岸町：<https://www.akkeshi-town.jp/gyosei/seisaku/machizukuri/koutsuumoukeisei/>）
（浜中町：<https://www.townhamanaka.jp/kakuka/soumuka/koutuanzen/2020-0605-1520-32.html>）
（弟子屈町：<https://www.town.leshikaga.hokkaido.jp/kurashi/soshikiichiran/kankyoiseikatsuka/2/3238.html>）
（鶴居村：<https://www.vill.tsurui.lg.jp/soshikikarasagasu/juminseikatsuka/seikatsukankokyakari/3/kokyokotsu/index.html>）
（白糠町：<https://www.town.shiranuka.lg.jp/section/hoken/nfml630000001ivi.html>）
（公共交通で旅するひがし北海道：<https://travel.willer.co.jp/campaign/hokkaido/>）
（くしろバス：<http://www.kushirobus.jp/index.html>）
（阿寒バス：<http://www.akanbus.co.jp/>）
（根室交通：<https://www.nemurokotsu.com/>）

3－4 地域の公共交通の課題

(1) 市町村・バス事業者へのヒアリングにおける主な意見等

【市町村】

- ・高校生の通学など日常生活に不可欠な交通手段として維持する必要がある。
- ・利用者が減少している。
- ・乗客が少ない便がある。
- ・バス路線を維持するための財政負担が増加している。
- ・公共交通を利用したいと思える利用促進策を展開する必要がある。
- ・釧路市内でどう乗換したらよいかがわかりにくい。
- ・路線のあり方を見直し利用実態にあった路線へ再編する必要がある。
- ・関係する自治体が路線について議論する場が必要である。

【バス事業者】

- ・経営努力を続けているが、路線維持も厳しい状況になっている。
- ・便数を減少しても経費を大きく下げるにはつながらない。
- ・事業者が単独で路線を維持することは困難である。
- ・コロナ禍による観光客減少の影響を受けている。
- ・路線の見直しについて話合う場が必要である。
- ・国庫補助の要件を満たさなくなる路線が発生する可能性がある。
- ・給与水準を上げることが難しく、運転手の募集をかけても応募がない。

(2) 地域の公共交通の課題の整理

公共交通の現状、利用状況、バス事業者等へのヒアリングなどから、地域の公共交通における課題を次のとおり整理する。

課題1：広域交通・生活圏交通の維持・確保

通勤・通学、買い物及び通院等の生活目的で利用されることが多い広域交通は、生活圏である中核都市（釧路市）や地域中心都市（根室市・中標津町）と周辺市町村を結ぶ重要な交通の一つである。広域交通を維持・確保するとともに、これら広域交通と生活圏交通とのネットワークを構築することが必要である。

課題2：利用実態に応じた持続可能な公共交通の確保

広域交通・生活圏交通を確保するためには、利用実態に応じた運行規模の適正化を図り、持続可能な公共交通を確保していくことが必要である。

課題3：関係者による情報共有・検討の活発化

これまで地域生活交通確保対策協議会など生活交通の確保を図るための協議の場を通

じ、関係者による協議等を行ってきたところであるが、利用実態に応じた路線検討を行うためには、路線単位あるいは地域単位などでの情報共有・検討をより活発化していくことが必要である。

課題4：公共交通の利用者数の拡大

地域住民による公共交通の利用促進とともに、アフターコロナを見据えた観光目的での公共交通利用者を増加させることが必要である。

課題5：各モード間の接続性の向上及び接続のわかりやすさの確保

広域交通、生活圏交通の各交通モード間での接続性の向上及び接続のわかりやすさの確保が必要である。

課題6：広域交通と生活圏交通との有機的な連携による生活の足の確保

本地域内における生活関連施設は、各市町村の市街地に集積している一方、通学・通院など生活実態を踏まえ、地域内で安心して住み続けるためには、郊外部・農村部等から各市街地までアクセス可能な交通モードの確保が必要である。